

授業科目名	テスト技法			年 次	2年										
				学 科	ITビジネス科										
担当教員名	松岡 慎吾			開講年度・学期	2025 年度・通年										
授業の方法	講義	週時限数	1	年間授業時数	38 時間	科目区分 必須									
実務経験の有無	有	実務経験	国内小売業グループにおいて ICT 推進業務及びシステム開発業務に従事。												
授業の概要 (実務経験を活かした教育内容)	ソフトウェアの大規模化・複雑化の問題に対して、良いソフトウェアを提供するための活動に多くのソフトウェアエンジニアが試行錯誤している。本科目では、良いソフトウェアを開発するための一般的な考え方や方法論について、ソフトウェアテストの観点から解説する。														
授業の到達目標	1. ソフトウェアテストの目的について理解し、品質保証における重要性を説明できる。 2. 代表的なテスト技法について理解し、説明できる。 3. テスト技法を用いたテストケースの洗い出しができる。														
授業計画	月	内容													
	4	・ソフトウェアの特徴　・ソフトウェアテストの重要性													
	5	・テストの7原則　・マイヤーズの三角形問題													
	6	・ホワイトボックステスト　・制御パステスト法													
	7	・ブラックボックステスト　・同値分割法													
	8	—													
	9	・境界値分析 ・前期末試験実施													
	10	・デシジョンテーブル													
	11	・状態遷移テスト													
	12	・組み合わせテスト(HAYST 法、ペアワイズ法)													
	1	・さまざまなテストツール(CEGTest、JUnit、PICT) ・卒業試験実施													
	2	—													
	3	—													
成績評価の方法	前期(9月)と後期(1月)の定期試験および受講状況を以って評価する。 成績評価基準:優(100~90)・良(89~70)・可(69~40)・不可(39~0)														
準備学習・事後学習等	授業内容の復習を行い、疑問点は質問できるようにまとめておくこと。														
テキスト	なし														
参考書・参考資料等	ISTQB テスト技術者資格制度 Foundation Level シラバス														
その他 (学生に対する要望、メッセージ)	2002 年の NIST レポートでは、次のように報告されています:「ソフトウェアの欠陥が米国に年間 595 億ドルの損失を与えている。適切にテストされていれば、約 3 分の 1 の問題は回避できただろう」(NIST, “The Economic Impacts of Inadequate Infrastructure for Software Testing”, 2002)。ソフトウェアテストは、ソフトウェアの欠陥を減らす重要な要素です。過去の先人たちによって提唱され、支持されたテスト技法を理解することが、皆さんのが良いソフトウェアを開発するための一助となることを期待します。														